



教育センターだより

夏号に寄せて

鳥取県教育センター
所長 坂本修一

山の辺で聞こえる鳥の声も、ウグイスからホトトギスに変わりました。私は2週間前の休日の早朝、大変幸せなことに、自宅の窓辺でアカショウビンの鳴き声をしばらくの間聞くことができました。遠距離からの声で、あいにく姿は見えませんが、鳥取市内で自宅にいなながらアカショウビンの鳴き声を聞く贅沢を味わえたことを喜んでいます。火の鳥アカショウビン。何かに燃えるにしても、アカショウビンの赤のように、強い赤色に燃えたいものだと思います。

県内の各学校におかれましては、夏季休業期を前に、新年度の様々な活動の点検や時点修正等を試みられているところもあるかと存じます。

教育センターでも、新年度の各種講座の実施をはじめとし、教育相談活動やアドバイザー等の派遣による学校支援活動、教育セミナーの実施等による教職員の方々の主体的な研修等のお手伝いをしつつ、それぞれの内容のさらなる充実のため、見直しの活動も同時に実施しているところです。

少しでも鳥取県教育の充実に資するよう、所員一同、誠意を持って取り組んでおりますので教育センターの活動について、よろしくご理解くださるようお願い申し上げます。

新たにアカショウビンの「シュウ」が教育センターのキャラクターの仲間に加わりました。このたよりのどこかに隠れています。探してみてください。



若手教員授業力向上ゼミナール

若手教員の育成！

本講座では、採用3年から10年までの若手教員を対象に、教科の指導力育成を目的として年10回の研修を行っています。

10回の研修内容は、大学講師による講義、県内の優れた実践者の授業参観、授業実践にむけての指導案作成、授業実践、先進校視察等です。

小学校理科の講座は、講師を大妻女子大学・石井雅幸准教授にお願いしています。6名の受講者は研修で学んだことを授業に取り入れ、そこから見えてくる自身の課題を確認しながら授業改善を図っています。そのために、各自が1学期に1単元、2学期には2単元についての教材研究を深め、



本年度は、小学校理科、中学校社会、中学校理科で実施しています。

- 中学校社会 (受講者5名)
講師 広島大学 池野範男 教授
- 中学校理科 (受講者5名)
講師 埼玉大学 清水 誠 教授



研修企画課

実践していきます。

7月13日(金)は、3回目の研修を行い、1学期の授業実践について振り返り、その課題について、講義などを参考に解決の方法を考えました。そして、2学期に代表で授業実践を行う2名の学習指導案作成を、各教科書会社の「問題」と「結論」を洗い出して比べ、その分析から単元の指導計画を考えるという方法で検討しました。

受講者はとても課題意識が高く、毎回活発な意見交換が行われています。

研修を通して、各学校、各地域で教科指導研究のリーダーとなられることを期待しています。



7月13日(金) 若手教員授業力向上ゼミナール(小学校理科)の様子-理科「てこのはたらき」の予備実験-



教育相談課

不登校未然防止のために

教育相談課では児童生徒本人をはじめ、保護者、教職員からも「不登校」についての相談がたくさん寄せられています。不登校のきっかけは、学業不振や友人関係の問題など多岐にわたっています。学校の先生方にとって、個々への対応は試行錯誤の連続であることが伺えます。

不登校問題の解決には、「未然防止」、「早期対応」、「登校支援」の各段階があり、児童生徒の実態や状況に応じて取組を行うことが大切です。本年度教育相談課では、主に「未然防止」と「早期対応」の在り方について学ぶ専門研修を3回計画しています。



講義される信州大学 川島一夫 教授

6月25日(月)には、信州大学 川島一夫 教授を講師にお招きし、第1回目を実施しました。先生は講義のなかで、未然防止に

つながる学校現場の取組として「厳しくても怒らず、やさしくても甘やかさない児童生徒への接し方」についてふれられ、具体的に次の点を押さえられました。

- ①身につけるべき内容(ルール)は、児童生徒の発達段階に応じて最初にはっきり示す。
- ②他の児童生徒と比較せず、本人の長所や頑張りを認める。
- ③問題の原因を性格のせいにならず、改善へ向かう方法を一緒に考えて提案する。

このことで、児童生徒一人一人の自尊心や自主性が高まり、進んで学校に通えるきっかけにもなるということです。是非これからの参考にしてください。

~今後の教育相談関係の専門研修開催予定です~

【不登校児童生徒の理解と支援】

- 第2回目: 9月20日(木) 追加受講受付中
「児童生徒の背景をとらえた効果的な不登校対策」
講師 埼玉県立大学 東 宏行 教授
- 第3回目: 10月1日(月) 受講受付終了
「登校へ向けた効果的支援の在り方」
講師 東京学芸大学 小林正幸 教授



情報教育課

魅力的な授業づくりのために

本年度もスタートしてから、はや4ヶ月がたとうとしておりますが、普段の授業でお困りのことはありませんか？

情報教育課の研修は、明日の授業にすぐ活かせるように、授業づくりの研修を中心に行っております。授業をどう魅力的なも



「プレゼンテーション力育成講座」研修(6/28)より

のに変えていくか、研修をとおして先生方と一緒に考えていきたいと思っております。本年度情報教育課が開催する研修講座は、講座の2週間前まで申し込み可能ですので、ご確認の上、受講申し込みをよろしくお願いいたします

Torikyo-NET いよいよクラウド化へ

予定どおり、9月1日よりTorikyo-NET機器がクラウドに移行されます。そのための工事の関係で、8月末にはTorikyo-NETのサーバーが数日間一時停止となります。

ご迷惑をおかけしますが、詳細については、学校代表メールをよくご確認の上、対応をよろしくお願い致します。



教育セミナーから広がる自主研修

学校教育支援室では、教育セミナーの充実を図っています。継続した学びにつながるシリーズもの、他の教職員研修の枠にはおさまらない分野、あらたな視点や知見をもたらすものなど工夫していきたいと思っております。

土曜日の開催が中心となっておりますが、先生方の自主的に研修をしようとする気持ちを応援したいと思いますのでよろしくお願い致します。



7月7日(土)教育セミナー「いまさら聞けない教師のための言語力向上基礎講座」での1コマ(写真は講師の日本海テレビ・山口有貴アナウンサー)

8月25日(土)には持続可能な発展のための教育(ESD)の教育セミナーを開催します。



スーパーバイザー事業のあらたな挑戦

本年度のスーパーバイザーによる学校支援事業では、教科・領域にとどまらず、右表のようなあらたな分野の研究の支援にも積極的に取り組もうとしています。

地域や校種をまたいだ研究団体を事業対象としたり、複数の研究を関連づけたりと研究の進め方についての新しい可能性を支援しています。

学校教育支援室

平成24年度スーパーバイザー事業(2)

研究領域	事業対象校等	スーパーバイザー
学校組織マネジメント	鳥取県学校統合問題研究会	兵庫教育大学・教授 浅野良一
メディア芸術活用	鳥取市立逢坂小学校	SVP2・ビデオアーティスト 服部かつゆき
コミュニケーション類	鳥取県コミュニケーション教育研究会	鳥の劇場・俳優 齊藤頼陽

また、他の事業対象校でも研究が進んでいます。その様子は県教育センターホームページのトピックスで少しずつ紹介していますので、ご覧ください。



7月5日(木)前田美子スーパーバイザーによる歌唱指導の様子(倉吉市立明倫小学校にて)

アドバイザー派遣の有効活用を

6月に本年度のアドバイザー派遣の申請を締め切り、審査の上、合計72件の研修を対象として決定しました。ぜひ有効に活用していただきますようお願いいたします。また、ホームページ上に派遣対象研修の一覧を掲載していますので、参加を希望される方は、主催研究団体に連絡をとってください。

心地よい環境を

～まずは情報教育棟から～
次長 松岡 一

来所された方々がリラックスでき、また、少しでも今後の研修への意欲につながればと、センター内各所にその環境を整えています。本年度は情報教育棟から少しずつ手がけているところです。ご来所の際には、研修情報、ICT関係情報、鳥取県情報、絵画、写真、デザインなど、ぜひ目にとめ手にとってご覧ください。

情報教育棟玄関フロアーの環境整備



旧職員の大作、各種情報提供



研修講師、センター職員等の作品



休憩スペースに長いすを増設『鳥取 Now』から県内情報を提供



情報教育関係提供資料と基礎用語の説明

